

『生活応援運動2026』の概要

近畿ろうきんのパーパス（社会的な存在意義）
はたらく仲間を支える“助け合いの金融”を実践し、
誰もが安心して生活できる社会づくりに貢献する。

『生活応援運動2024・2025』を踏まえた課題

これまでの『生活応援運動』から見てきた【課題】に対し、“金融教育”を中心に取り組みました。引き続き、さらなる取り組みの展開が必要です。

【計画的な資産形成】

ライフプランに応じた資産形成ができていない。資産形成が計画どおりできている組合員は約1割に留まる。

【金融教育の強化】

金融教育の取り組み実施会員は依然として約1割。会員推進機構と連携した取り組み強化が必要。

【スマホ時代における消費者トラブル】

スマホで手軽に情報を入手できる時代だからこそ、気づかないうちに消費者トラブルに巻き込まれる可能性がある。

組合員等への金融リテラシー（お金に対する知識・判断力）の向上を図る取り組みが不十分

会員推進機構とともに

“金融教育”

の取り組みを強化します。

役割①

「お金に関して考えるきっかけ、気づき」の場とすることで、今後のライフプランを考える機会を提供

役割②

金融リテラシーの向上により、多重債務などの消費者トラブルを防止

「助け合いの金融」を実践する 福祉金融機関としての役割発揮

金融教育での「きっかけ・気づき」から「相談」に、そして「安心・笑顔」につながる活動へ

- ▶ アンケートやセミナー等の取り組みを強化するとともに、相談フォーム等も活用し、組合員の生活改善を図ります。
- ▶ 個々のライフプランに応じて「ためる」・「ふやす」を使い分けた資産形成のサポートを強化します。
- ▶ 安心して便利ならうきん商品の情報発信や利用促進を強化し、高金利ローンの利用を防止します。
- ▶ 多重債務などの消費者トラブルから組合員を守るため、面談と対話を意識し、組合員に寄り添った丁寧な相談活動を実施します。

《取り組みのフィードバック》

●金融教育説明会実施回数・相談人数 ●生活応援額 ●アンケート集計結果 ●『生活応援運動』実施報告書

会員推進機構との結びつきの強化

会員推進機構と連携し、ろうきん運動の仕組み化に取り組むことで、組合員の生涯にわたる生活を応援します。

<ろうきん運動の活性化>

推しのNPOプロジェクト「ツナガル行動宣言」

<地域社会への寄与>

金融教育を含む、会員推進機構が取り組むろうきん運動が「地域子ども・子育て支援に取り組む非営利団体」への寄付を通じて、子ども支援に繋がります。